

萩原朔太郎全集

第十四卷

# 萩原朔太郎全集

第十四卷



筑摩書房

萩原朔太郎全集 第十四卷

昭和五十三年二月二十五日

初版發行

著者 萩原朔太郎

發行者 岡山 猛

發行所 筑摩書房

東京都千代田區神田小川町二一八

電話(二九)七六五一(代表)

振替口座 東京六一四二二三

本文整版印刷 株式會社 精興社  
寫真整版印刷 株式會社 東京美術印刷社

製本 株式會社 牧製本印刷株式會社

(分類) 0395 (製品) 73514 (出版社) 4604

## 凡例

一、本全集は、萩原朔太郎の既發表、未發表を問わず、詩・短歌・俳句・アフォリズム・詩論・文明論・書評・序跋・書簡・各種ノート等にわたって、全業績を収録することを目途とした。

一、本卷(第十四卷)は、生前著者編纂の單行本に未収録で、本全集既刊の卷に收め得なかった、詩、短歌、アフォリズム、詩歌論、音樂論、書評、推薦文、時事評論等に關するものを、雜纂として収録した。

一、書籍・雜誌・新聞等より収集したこれらのものは、内容の上から便宜的に詩、短歌、アフォリズムを收める「補遺」と「詩論・講座」「音樂」「コラム」「序文・跋文」「書評・新刊紹介・推薦文」「雜纂」「アンケート・質疑應答」「選詩・選評」の九部門に分類した。

一、本文は、各種書籍・雜誌・新聞等の初出形を底本とした。その初出形が入手できなかったものについては、筆寫原稿を底本とした。

一、本文は、正字正假名遣に統一した。

次のような場合、訂正した。

- 1 明らかな漢字の誤用、俗字・誤字・誤植・脱字
  - 2 假名遣の誤り
  - 3 書名・誌名・人名など固有名詞の誤り
- 次のような場合、原文のままとした。

- 1 著者獨得の用字・用語

例 擷得、深酷、澎湃、無盡數、涸燥、發韻、虛淡、ニヒリツク、等

- 2 著者の造語とみられる語彙

例 じめじめしさ、比準、懸願、賞頌、秋烈、師管、奔縱、切圓、アメリカカチハイ、反ホエジツク、アン

チボエジツク、等

3 送り假名の送り過ぎ、送り足りないもの

例 鋭どい、輝やく、物臭さ、拙づかつた、短かい、等

ただし、近接箇所での送り假名の不統一など、著しく不自然と思われるものは改めた。

4 踊り字

ただし、「各々」「益々」は「各々」「益々」とし、また、單語をまたぐ踊り字、二字にわたる踊り字、平假名の踊り字は改めた。しかし引用詩歌中ではそのままとした。

例 軍樂隊々長↓軍樂隊隊長、馬鹿々々しい↓馬鹿馬鹿しい、たゞ↓ただ、かくくく↓かくかく、等

5 外來語・外國人名の表記

例 セークスピア、セクスピア、ベトーベン、ベートベン、ダンヌンチヨ、ゾルレーヌ、ドビツシエ、イ

デア、イデー、デリケシイ、等

ただし、明らかな誤りは正した。

一、句讀點は、明らかな誤植と見られる場合を除き初出形のままとするのを原則としたが、雑誌・新聞等ではしばしば行末の句讀點が省略されているので、これを必要最小限補った。また筆寫原稿のみが残っているものは、本文中の改行、行あき、句讀點を適宜補った。

一、本文中の引用詩文は、著者自身の作品を含めて、それぞれの原本と照合して校訂し、その異同は校異において明記した。

一、本文では「\*」印で編集上の注を附した。

一、本巻收録の各篇については、すべて「初出書籍・雑誌・新聞一覽」に於て、初出書籍の名稱・刊行年月、お

よび初出誌紙の名稱・號數・發表年月（日）を明記した。

一、「補遺」「詩論・講座」「音樂」「コラム」「序文・跋文」「書評・新刊紹介・推薦文」「雜纂」「アンケート・質疑應答」「選詩・選評」については、卷末に「解題」を附した。

## 目次



## 補遺

|           |    |          |   |
|-----------|----|----------|---|
| 幼兒と基督     | 五  | 短歌       | 七 |
| 卷頭言       | 七  | 易者の哲理 他  | 七 |
| 概念敘情詩 六篇  | 八  | 斷章       | 八 |
| 賭博の哲學 他   | 一三 | 夢について    | 九 |
| 詩の本質      | 一四 | 孟子の出る時   | 二 |
| 藝術に關する小論  | 一四 | 貝        | 三 |
| 復讐と怨恨との藝術 | 一五 | ぬけ穴 (後半) | 三 |

## 詩論・講座

|               |   |       |   |
|---------------|---|-------|---|
| 自由詩のデレンマ      | 三 | 詩の本質  | 五 |
| 敘事詩的情操と抒情詩的情操 | 四 | 詩の作り方 | 六 |
| 詩人たらんと志す若い人々へ | 四 | 素質と教養 | 七 |

|                 |     |
|-----------------|-----|
| 雜感              | 八   |
| 明治大正文學全集 萩原朔太郎篇 | 五   |
| 詩の一般的特質         | 一〇五 |

|      |     |
|------|-----|
| 詩的感動 | 一三  |
| 抒情詩  | 一八  |
| 詩    | 一五〇 |

## 音樂

|                  |     |
|------------------|-----|
| 大沼竹太郎氏を送る言葉      | 一三  |
| 高崎の音樂會を聽きて       | 一四  |
| ゴンドラ洋樂會          | 一五  |
| マンドリンを知らない人のために  | 一七  |
| 音樂の解らない國民        | 一六  |
| 管弦音樂會の印象         | 一七〇 |
| ゴンドラ洋樂會演奏 洋樂曲目解説 | 一七三 |

|                 |     |
|-----------------|-----|
| ゴンドラ・マンドリン俱樂部 第 |     |
| 三回試演會曲目         | 一七  |
| ゴンドラ・マンドリン俱樂部 第 |     |
| 四回合奏試演會曲目       | 一七  |
| 歌劇の臺詞に就いて       | 一八  |
| マンドリン奏法の要訣      | 一八四 |
| マンドリン練習者へ       | 一八六 |

## コラム

|          |    |
|----------|----|
| 歌人の無生活   | 二三 |
| 街の子供たち   | 二三 |
| クリスマスの悲哀 | 二四 |
| 犀星氏の詩    | 二五 |
| 軍歌の今昔    | 二六 |
| 軍装の美學    | 二七 |
| 二つのタイプ   | 二八 |
| 大衆の無邪氣さ  | 二九 |
| 愛國行進曲に就て | 三〇 |
| 觀念過剰症    | 三一 |
| 女の洋装     | 三三 |

## 序文・跋文

|                      |    |
|----------------------|----|
| 詩集のはじめに (『抒情小曲集』)    | 三四 |
| 愛の詩集の終りに             | 三八 |
| 序に代へて (『新しい詩とその作り方』) | 四五 |

|          |    |
|----------|----|
| インテリと民衆  | 三三 |
| 文士の従軍行   | 三四 |
| 「キミ」言葉   | 三五 |
| 日本の一進歩   | 三六 |
| 漫畫映畫の祕密  | 三七 |
| 詩人の嫉妬心   | 三八 |
| 詩人協會に就いて | 三九 |
| 國民再教育    | 四〇 |
| 文學者と當局者  | 四一 |
| 最後の一滴    | 四二 |

|                     |    |
|---------------------|----|
| この詩集の讀者のために (『葦茂る』) | 四八 |
| 序 (『煩惱の春』)          | 五三 |
| 序 (『青き魚を釣る人』)       | 五六 |

|                             |     |
|-----------------------------|-----|
| 序 (『天上の砂』)                  | 二六  |
| 沙原を歩むに序す                    | 二五九 |
| 序 (『幽棲美學』)                  | 二六〇 |
| 序言 (『月の出』)                  | 二六一 |
| 安井龍に就いて (『風のない樹木』)          | 二六五 |
| 加藤介春氏の詩集に序す (『眼と眼』)         | 二六八 |
| 僕はこの種の詩を欲する (『蒼白い窓』)        | 二七四 |
| 序文 (『隠沼』)                   | 二七九 |
| 天野康夫君について (『天野康夫詩集』)        | 二八〇 |
| 暮鳥の詩集に序す (『暮鳥詩集』)           | 二八二 |
| すばらしく斬新なるもの (『こはれた街』)       | 二八四 |
| 序 (『風貌』)                    | 二八五 |
| 室生犀星詩集の編選について               | 二八六 |
| 山田牙城君の詩文について (『死と<br>絶望の書』) | 二八九 |
| 序 (『初餐四十四』)                 | 二九〇 |
| 人工樂園のこと                     | 二九一 |

|                            |     |
|----------------------------|-----|
| 序 (『ランボオ』)                 | 二九五 |
| 大手拓次君の詩と人物 (『藍色の薔』)        | 二九八 |
| 「萩原朔太郎詩集」序文                | 三〇〇 |
| 序言 (『村田春海詩集』)              | 三〇一 |
| 鈴木君の詩について (『帝國情緒』)         | 三〇三 |
| 序に代へて (『北方の詩』)             | 三〇四 |
| 古賀政男と石川啄木 (『古賀政男藝<br>術大觀』) | 三〇四 |
| 序 (『土の唄と民話』)               | 三〇七 |
| 序言 (『昭和詩鈔』)                | 三〇八 |
| 詩形の變遷と昭和詩風概説 (『昭和詩鈔』)      | 三〇三 |
| 原著者の言葉 (『新選萩原朔太郎詩集』)       | 三〇六 |
| 序 (『詩集華愁園』)                | 三〇七 |
| 小序 (『北溟の歌』)                | 三〇八 |
| 後記 (『樋口一葉全集第五卷』)           | 三〇八 |
| 序 (『大陸の秋』)                 | 三〇五 |
| 序 (『冬塵』)                   | 三〇六 |

# 書評・新刊紹介・推薦文

|                     |    |
|---------------------|----|
| 『生くる日に』を讀みて……………    | 三六 |
| 明る妙（尾山篤二郎氏著）……………   | 四一 |
| 南京玉（宮川兼次郎氏著）……………   | 四二 |
| 明る妙を讀む……………         | 四三 |
| 『發生』を讀む……………        | 四六 |
| 『深林』を讀みて感ずる所あり…………… | 五一 |
| 現代英詩鈔（山宮允著）……………    | 五五 |
| 「愛の詩集」に就て……………      | 五七 |
| ○（『室生犀星詩選』）……………    | 五八 |
| 高橋元吉氏と「遠望」……………     | 五九 |
| 醉茗詩集を讀みて……………       | 六〇 |
| 林一郎と其の著書……………       | 六二 |
| 日本文學の誇るべきシムボル……………  | 六五 |
| 人生情熱……………           | 六六 |

|                       |    |
|-----------------------|----|
| 詩集「一九二八年の一部」を批評す…………… | 六六 |
| 詩人王北原白秋……………          | 六九 |
| ○（『現代詩講座』）……………       | 七〇 |
| ○（『海豹と雲』）……………        | 七〇 |
| 詩集十三月を評す……………         | 七一 |
| 情感の深い言葉と美しい歌……………     | 七〇 |
| 尺牘（『はいぶの中の家族』）……………   | 八一 |
| 詩集 斷片を評す……………         | 八二 |
| 前田夕暮氏と水源地帯……………       | 八五 |
| 『祕帖』を讀みて……………         | 八七 |
| シエストフのチエホフ論について……………  | 八九 |
| ボードレエル詩抄を讀む……………      | 九一 |
| 西方の人……………             | 九五 |
| 「ゴルフ」にある個性の争闘……………    | 九六 |

# 雜纂

基督としてのニイチエ……………四〇〇

○『詩學』……………四〇〇

「島崎藤村の文學」をよむ……………四〇一

幼年の郷愁……………四〇四

野性の叫び……………四〇四

○『森鷗外全集』……………四〇五

○『全編百聞隨筆』……………四〇六

ドストイェフスキイの神祕……………四〇七

『美しき家族』をよむ……………四〇七

大手拓次氏著「藍色の墓」……………四一二

音樂の聽える小説……………四一三

詩集「月に吠える」に就て諸名家

の言葉……………四一七

○（『日本現代名詩集』附記）……………四一八

百田宗治氏著『自由詩以後』……………四一三

林房雄著「壯年」……………四一四

中河與一氏著「日本の理想」……………四一四

内田百閒氏著「丘の橋」……………四一五

巨大なる詩匠……………四一六

在りし日の東洋詩人たち……………四一七

戸隱の繪本……………四一八

無量の哀傷……………四一九

新詩夜話を讀む……………四一九

立原道造全集第一卷……………四二三

流俗を超越せる『雲泉』の歌……………四二四

○（「題のない歌」附記）……………四二六

郷土望景詩 前書き……………四二九

球轉がし（他八篇）……………四三〇

## アンケート・質疑應答

|                     |     |
|---------------------|-----|
| 新著虚妄の正義について         | 四三二 |
| 若き詩人諸君に語る           | 四三三 |
| 附記                  | 四三八 |
| 著者の言葉               | 四三九 |
| 時局と詩壇               | 四四〇 |
| ○〔現代詩集〕選集言          | 四四一 |
| ○〔坂東太郎〕編集後記         | 四四三 |
| 寫眞校正の件              | 四四四 |
| 目次ひさ子嬢の死を悼む         | 四四五 |
| 夫人と佐藤君は同棲した事もある     | 四四六 |
| ○（BO人形クリスマス誌上プレゼント） | 四四八 |
| 創刊號の歌に就て            | 四六五 |
| 大正六年文藝界の事業・作品・人     | 四六五 |
| 花、土地、人              | 四六六 |

|                 |     |
|-----------------|-----|
| 得體が解らぬ          | 四四九 |
| 蒸汽船に乗せた蕪村       | 四五〇 |
| 萬葉の羈旅歌          | 四五〇 |
| 人生は五十から         | 四五二 |
| その頃を語る          | 四五三 |
| ○〔詩人の使命〕廣告文     | 四五五 |
| 文學（〔詩研究講義〕廣告文）  | 四五六 |
| 若妻と中年の夫の場合      | 四五九 |
| ○〔詩研究講義〕廣告文     | 四六一 |
| 現下の歐洲の狀勢とわが關心   | 四六三 |
| 夏の旅行地の感想        | 四六六 |
| 詩人の好める詩人及び詩風    | 四六七 |
| 余の文章が始めて活字となりし時 | 四六七 |

|                       |     |
|-----------------------|-----|
| 文壇對歌壇の現狀……………         | 四六七 |
| 文壇諸家の標語……………          | 四六八 |
| 諸家の眼に映じた新唱……………       | 四六八 |
| 予が愛誦歌……………            | 四六九 |
| 短歌雜誌に對する抱懷……………       | 四六九 |
| 私の詩を作る用意……………         | 四六九 |
| 現歌壇に對する諸家の抱懷……………     | 四七〇 |
| 短詩形藝術を如何に觀るか……………     | 四七〇 |
| 文學者たらむと志した動機……………     | 四七三 |
| 秋から來る哀感及び印象……………      | 四七三 |
| 本年文壇の特徴批判……………        | 四七三 |
| 大正十一年の歌壇考察……………       | 四七四 |
| 歌壇現下の中心問題！「口語歌觀」…………… | 四七四 |
| カフェとその情緒……………         | 四七四 |
| 愛兒命名錄……………            | 四七五 |
| 戀愛とは？結婚とは？……………       | 四七五 |
| 十四年度作品批評……………         | 四七五 |
| 十四年度に於て特に注目したる作……………  |     |

|                         |     |
|-------------------------|-----|
| 家或は作品に對する感想……………        | 四七八 |
| 大正十五年の文壇及び劇壇に就て語る……………  | 四七八 |
| 質疑問答……………               | 四七六 |
| 私の一日……………               | 四八〇 |
| 自分の顔の印象……………            | 四八〇 |
| 質疑應答……………               | 四八〇 |
| 質疑應答……………               | 四八五 |
| 私の囑望する新作家……………          | 四八六 |
| 余は何新聞を愛讀するか及びその理由……………  | 四八六 |
| 詩話會解散に對する感想……………        | 四八七 |
| 愛誦する百人一首の歌……………         | 四八七 |
| 私の好きな短歌……………            | 四八七 |
| 現文壇に對する不満……………          | 四八九 |
| 文壇生活 苦しかつた事、嬉しかつた事…………… | 四八九 |
| 女性の作家に對する希望……………        | 四八九 |
| 名士と食物……………              | 四九〇 |
| 昭和二年を回顧して……………          | 四九〇 |



|                                        |     |                      |     |
|----------------------------------------|-----|----------------------|-----|
| 現代美男くらべ                                | 四九〇 | 最も愛讀した作品             | 四九七 |
| 愛誦詩集                                   | 四九二 | 教科書俳句として推薦するもの       | 四九七 |
| 今年度 推奨・非難                              | 四九三 | 最近の詩書                | 四九八 |
| 近來資本主義的威力を振ひつつあるジャーナリズムは文藝に如何なる影響を與へるか | 四九三 | 諸家に訊く                | 四九八 |
| 雛祭・卒業式の思ひ出                             | 四九四 | 質問                   | 四九八 |
| 來年は何をするか                               | 四九四 | 裝釘各説                 | 四九九 |
| 現代詩の主知的傾向をいかに観るか                       | 四九五 | 將來の藝妓は斯あるべき者         | 四九九 |
| 何故詩を書くか                                | 四九五 | 歌壇外に聽く               | 五〇〇 |
| 夢二畫伯を送る                                | 四九五 | 旅先を讀へる               | 五〇〇 |
| 作家・批評家・畫家・ジャーナリスト交友録                   | 四九五 | 媽祖祭を手にして             | 五〇〇 |
| 一九三二年に計畫する                             | 四九五 | 十年ひと昔                | 五〇〇 |
| 十歳經ぬ                                   | 四九六 | 昭和十年度忘れられない事、詩集等について | 五〇一 |
| 聞いてわかる言葉へ                              | 四九六 | 問題にして見たい事            | 五〇一 |
| 千九百三拾三年の詩・詩集・詩論                        | 四九七 | 一九三六年に題す             | 五〇一 |
| ドストイェフスキイの作品のうち                        | 四九七 | 諸家迎春所感               | 五〇一 |
|                                        |     | 今年の計畫                | 五〇二 |
|                                        |     | 地方文藝運動への注文           | 五〇三 |